

## 日本医学会分科会活動報告

学会名(No.38) 日本交通医学会

代表者名 花岡 一雄

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

### a. 特に学術的に重要と考えられるもの

本学会は、1914年7月10日に東京帝国大学医科大学第2外科佐藤三吉教授を初代会頭といたしまして設立されました。当時は日本鉄道医協会と称しておりました。後藤新平、青山胤道、北里柴三郎、栗源庸勝、佐藤三吉の5先生が創立者として名前を連ねておられます。創立時には、鉄道が避けては通れない、鉄道外傷、鉄道感染特に結核についての研究が学会の主なるテーマでした。

それから、100年後の2014年6月7日、JR博多シティのJR九州ホールにおきまして、本学会創立100周年記念事業が開催されました。その際、今後の交通医学の重要な研究課題となる宇宙医学についての講演を医師でもある古川聡宇宙飛行士をお招きして市民講座を挙行了しました。約500名の市民の参加を得て有意義なひと時を過ごせました。現在では、交通並びにその事業に関する災害、予防医学および医事衛生の進歩普及を図ることを目的として活動しています。

本学会の過去3年間の活動としては、通常の年次学術集会、地方会の開催などを中心とした学会活動です。年次集会は原則2日間開催しています。

#### 開催地と講演テーマ

2021年 仙台（オンライン開催） 会長 佐藤博（JR 仙台病院院長）

- ・ ウィズコロナ時代の産業保健
- ・ 新型コロナウイルス感染症が我々にもたらしたものー現状と今後の対応の課題ー
- ・ 困った患者さんへの対応と医療安全管理者の関わり
- ・ 東北観光の活性化について～コロナ禍における広域連携による東北観光の推進～

2022年 名古屋 会長 中尾昭公（名古屋セントラル病院院長）

- ・ 医療従事者のための産業保健
- ・ 新型コロナウイルス感染症ーこの2年間を振り返るー
- ・ 職場のメンタルヘルス

2023年 札幌 会長 四十坊典晴（JR 札幌病院院長）

- ・ 働き方改革と産業保健
- ・ 5類感染症となった新型コロナウイルス感染症ー今後の対応と課題ー
- ・ 札幌駅前北5西1・西2地区再開発事業の概要について
- ・ 重症喘息の診療連携と最新の治療についてー複雑な病態を紐解く新たな治療戦略ー

また、年6号の本学会学術誌「交通医学」を刊行してきました。

本学会における独自の活動のテーマとしては、

1. 超電導リニアによる中央新幹線計画とそれに伴う乗客の安全性。
2. 特に運転手に関する睡眠障害と健康管理
3. ストレスチェック法制化後約5年の実状と課題

<p>4. 今後の日本宇宙開発と北海道～有人活動とスペースポートを中心に～</p> <p>5. 北海道新幹線の開業と今後の課題について</p> <p>6. 認知症と自動車運転</p> <p>7. 企業立病院と地域医療</p> <p>8. 企業の健康経営とその課題</p> <p>9. 地域活性化における鉄道ビジネスの果たす役割とは～TWILIGHT EXPRESS 瑞風の事例</p> <p>10. 多職種協働病院改革の推進</p> <p>11. 交通輸送の運転・操縦者の健康管理と事故予防</p> <p>12. リハビリテーションや地域包括ケア診療における各病院の取り組み</p> <p>13. 超高齢社会を見据えた多職種によるチーム医療の実践</p> <p>14. 事故防止につながる JR 各社健康管理部門の取り組み</p> <p>15. 病院における幸せ健康経営への挑戦～職員を幸せにする戦略幸福度とプレゼンティーズムの可視化</p> <p>等があげられます。</p>
<p>b.当該領域における国際的な役割</p> <p>当該領域における国際的な役割としては2006年世界交通医学会を東京で開催しました。その後、中国交通大学との交流や、インドなど外国での高速鉄道開設において、医療面での支援部隊を送っています。</p>
<p>c.活動からもたらされる社会的な意義</p> <p>交通手段として、鉄道のみならず、車輜、飛行機などにおける医療面での研究により、乗客のみならず運転者らを含めて安全性や安心感を追求するために、21世紀において不可欠な活動として、社会的意義を感じています。</p>
<p>d.学会運営上留意している点</p> <p>学会運営上は、全国に存在する主としてJR病院に関連する施設に勤務する医療者や地下鉄、東京都交通局などの職員が会員となり、学会活動をしています。加えて鉄道健診センターや鉄道総研などからも参加していただいています。また、最近、各私鉄社員からも交通医学に関心を持たれて、会員に加わってきている現状であり、交通に係わるすべての病院から会員を求めています。</p>
<p>II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。</p>
<p>残念なことですが、本学会の活動の性格上、他の分科会との連携活動は現在のところはありません。</p>